ＳＹＤかわらばん

〈最新活動情報 No.167〉 2022 年 10 月 20 日号

かわらばん特別企画「修養団と私」

1月号よりスタートいたしました「修養団と私」。毎月、修養団運動推進の原動力として、各地で活躍されている方々に特別寄稿いただいております。

修養団と私「私は酒のみ ただの遊び人である」

岐阜県連合会青年部ともしび会
相談役 田渡 英男

私は自他共に認める人生の遊び人である。しかし「貴方は幸せですか？」と聞かれたら修養団の道を歩いてきた世界一の幸せ者ですと答えます。

貴方がいきなり聞かれたらどう答えますか。幸せを感じる定義は十人十色で１人１人違います。仏教の教えから言えば幸せですと感謝している方を指しますが一般には、「財産に恵まれている」「健康である」「思い煩う事がない」「良き家族、友人にかこまれている」等々です。

この世に生を受けて７６年。人生のゴールも見え終活真最中の私の思いをしたためます。私は「幸せな人とは良き人とのご縁に恵まれている人」と思っています。良き人とご縁がある人は体中に宝物を抱えているようなものですね。修養団の皆さんとご縁を頂き共に修養団活動を５０年以上続けて感ずるのは「こんなに幸せでいいのか」と思うほど数々の良き人とのご縁に恵まれてきたことです。

私の幸せなご縁は修養団本部の皆さんを始め地区連合会の皆さんとの出会いをあげることができます。団を通して青少年育成から青年の船を始め多くの海外支援に至るまで幅広く共に活動できた事は奇跡のような良きご縁だったと思うこの頃です。多くの講師の皆さんに来ていただきお酒の飲み方から人間道まで教えて頂いたのも私の人生を豊かにしていただいた一コマです。

最後になりましたが私の良きご縁の最上位は良き協力者を得たことです。修養団の事を全く知らずに青年講習会に参加した時の事です。はじめて参加した会場は１００名ほどの受講生がおりました。講師の親の恩のお話の時すぐ隣でシクシクと泣いている娘さんを見て、私もつられて涙していました。この出会いが今の妻峰子です。講習を受けた後ともしび会を結成し５５年に渡ってキャンプを始めとする奉仕活動を共に歩けたことです。皆さんも現在のご縁を最高のものとしてその方たちを大切にし、幸せな人生を送られますことをお祈りいたします。

【かわらばん担当者からリクエストして写真を送っていただきました。】

田渡 英男さんへ≪質問コーナー≫

① 好きな言葉
→「どんな小さなご縁も大切に」

② 私のおすすめの本
→「多すぎて回答不可…」

③ 好きな食べ物 →「ほぼ好き嫌いなし」一合の酒と三口ぐらいのおつまみがあれば満足

④ 趣味 →「活字中毒」読んでいるか書いていれば落ち着く“連続日記60年継続中”

⑤ 最近はまっていること、または始めようとしていること
→「理想の終活に向って奮闘中」“まだ死にたくないともがき苦しむ日々”

⑥ 夢 →「若い頃は夢多き青年で誇大夢想家と笑われていました」「今は“夢無き枯れ老人”」

⑦ 会員の皆様へ一言メッセージ
→ 私以上の幸せ者になって下さい！そう思えばそうなります！

➡ご感想やメッセージなどありましたら、ぜひＳＹＤ社会教育部までご連絡下さい。

主催事業・活動等

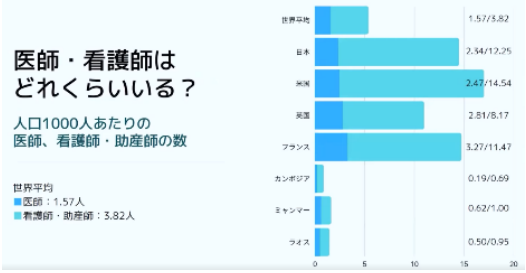
報　告

9/24…「WAKU×2ボランティアリーダー研修会」（広島）8人〔広島市・広島県健康福祉センター〕　《根岸秋吉》

初めに、修養団広島県連合会・石田博嗣会長から「ここ3年新型コロナウイルス感染の影響等で活動がほとんど出来ていなかった。今回の研修からもう一度スタートしていきたい」との挨拶があった。その後、修養団本部根岸秋吉講師から“SYDの理念と活動”と題して講話があった。午後には、“これからのSYDの在り方について”や12月開催予定の“子どもWAKU×2ひろば（福山）”のプログラムについて協議をおこなった。参加者は久しぶりの集いの喜びと活動再会に胸を躍らせていた。

9/30…第3回「青年ボランティアゼミナール」“すべての人が、生まれてきてよかったと思える世界を”18人《Japan Heart・近藤ゆふき》

近藤ふゆき氏より途上国や貧困地域では、医師が少なく、小児がんが多いこと、また識字率が低いなどを理由に“救える命が救えない”という現状や、「医療の届かないところに医療を届ける」を理念とした活動についての話があった。参加者は、妊産婦への定期検診の啓蒙活動や難病でも医療を受けられるという“心のケア”の大切さを学んだ。「途上国の方々の生命だけでなく、心と人生も救っているのがとても素晴らしいです」と感想があった。



10/15～17…「神嘗祭特別講習会」〔三重県伊勢市・伊勢青少年研修センター〕《武田数宏、寺岡賢、山﨑政弘、斎田聖生、竹本英美、亀田希奈里》

※詳細次号

【幸せの種まきキャンペーン《出前講座》】　《山口千恵子、谷野渉、増田航介》

報　告

9/29　埼玉県久喜市立久喜東小学校　65人
10/3　北海道音更高等学校ボランティア部　30人

予　定

10/25 静岡県私立浜松聖星高等学校
10/27 福島県喜多方市立山都小学校

予　定

10/28…第4回「Zoomでオンライン“愛と汗”幸せの種まき講演会」“人は皆先生！～たくさんの出会いが教えてくれたこと～”　《講師：青年部・増田航介》

11/12…「チャリティーバザー（幸せの種まき祭り）」〔東京都渋谷区・SYDホール、玄関前広場〕

会員組織の主な動き

報　告

9/17～19…「友愛子ども自然体験キャンプ」35人〔滋賀県東近江市・四季の森キャンプ場〕　《志村和也》

今回は、延期開催として9月の3連休の日程で、SYDとの共催ではなく、修養団岐阜県連合会青年部ともしび会単独で実施。台風接近にも負けず、リーダーたちを中心に、天候に合わせてプログラムを入れ替え、新たに交歓の集いをおこなうなど、臨機応変に工夫を凝らして進行。キャンプファイヤーでは、集会用テントの下でレクや村旗発表をおこなった。

参加した子どもも大人も、お互いに楽しみ、笑顔溢れる3日間となった。

情報あれこれ

㊗修養団千葉県連合会・酒井信男事務局次長（84歳）が、（公社）佐倉シルバー人材センター広報誌「ハローシニア佐倉」に紹介されました。

「Zoomでオンライン“愛と汗”幸せの種まき講演会」での情報交換会（懇親会）にて、自身が活動されている影絵劇についてお話しいただいたことを機に、後日担当部よりお願いし掲載された記事をお送りいただきました。

(公社)佐倉市シルバー人材センター　〒285-0025 佐倉市鏑木町198-2 レインボープラザ2F　TEL:486-5482 / FAX:486-5419　ハローシニア佐倉

人と趣味

やって来るぞ！影絵劇だ！

影絵塾9　副代表
酒井　信男さん

『手作り影絵劇』が趣味の酒井信男さん（佐倉・和田地区5班）を取材しました。佐倉市を拠点にするボランティアサークル『影絵塾9』の副代表としても大活躍です。

影絵塾9のことー

佐倉市民カレッジ第9期生が平成15年の文化祭で影絵劇を上演。この卒業生が『影絵塾9』を設立して平成16年4月から活動を開始。上演は主に幼児や児童に向けて、年に7回ほど。年14回という記録もあります。3年かけて制作した最新作『女化狐（~~バケキツネ~~オナバケ）』を令和3年12月に上演して130回目を達成です。

手作りするところはー

劇の原作は主に民話です。原作以外はすべてサークルメンバーで創ります。脚本書き、背景と人形の原画制作、厚紙で人形作り、音声・映像編集、演出は得意な人で手分けし、人形作り、人形組み立て、声優、人形演技は全員でします。上演できるのは、現在は7作品です。

お得意の分野はー

先ずは人形の原版制作です。原画はすべて残しています。次に、人形の関節構造を考えます。劇中では、人形の頭や上体、手足などを動かして喜怒哀楽を表現します。これ等の部分を動かし易いように試作・調整します。部品調達と加工も私の仕事です。最新作『女化狐』では、人形の完成に約1年かかりました。

いよいよ稽古入りですねー

人形類を整えると劇の仕立てです。配役を決め、台詞を練習して録音。これを聴きながら演技稽古を繰り返して役に入り込み、他のメンバーからの演技ヒントも参考にして演技指導を受け、皆の気持ちが詰まった約15分の作品が完成します。最新作『女化狐』では、家の主人、村の子供、狐、村人、狩人、狐に化けた女、母親などが演じられました。

影絵劇の魅力はー

会場が一体になる瞬間でしょうか。或る保育園での話です。山へ栗を採りに行った寺の小僧が山姥に喰われそうになって必死で寺に逃げ帰ったが、夜中で門の扉は閉まっていた。扉をドンドン叩く音と叫び声に気付いた和尚はゆ～っくりと身支度。と、園児から大きな声援―『早く助けてあげて！』。スクリーンの裏側では、メンバーは互いに見合ってニコリ。最高潮になると、話に入り込んだ子供達の息遣いはスクリーンの裏で演じる側に伝わり、嬉しくなります。

取材には代表の河西久美子様もご一緒いただき、活動の様子をとても楽しく聞かせていただきました。今の心待ちは『新しいメンバーの加入とコロナ禍により自粛している活動の再開』とのことです。サークルのホームページは『影絵塾9』で検索できます。

上：人形(狐)の原画(制作:酒井さん)
下：原画を基に制作した首の動く人形(狐)

最新作『女化狐』タイトル

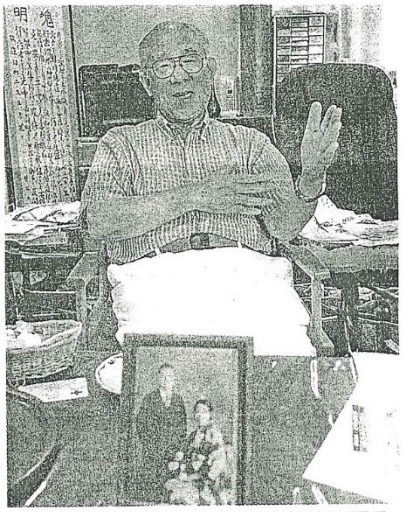
場面背景の原画（全15場の第2場）

おっかぁの人形を操作する酒井さん（右端）

スクリーン裏で人形を操作するメンバー酒井さん（左から2人目）

取材担当／広報副委員長　徳野　廣一

㊋修養団上越、横瀬和夫会長、「悲劇、語り継ぐ」～今こそ平和を問う～
「上越タイムス」にインタビューを受け掲載されました。



若い頃の父親と母親の写真を前に語る横瀬さん。出征する父親から「『お母さんを頼んだぞ』と言われたことが忘れられない」と話す

2022年（令和４年）　8月14日（日曜日）　（2）

終戦77年

悲劇、語り継ぐ

～今こそ平和を問う～　〈中〉

悲惨な思い二度と

上越市北城町4　横瀬　和夫（よこせ　かずお）さん（87）

元会社社長、横瀬和夫さん（87、上越市北城町4）は1935（昭和10）年、日本の統治下にあった大連（現在の中国遼寧省大連市）で生まれ、戦後まで過ごした。父親の戦死、ソ連軍（当時）の侵攻、中国共産党による収容所での生活経験が、現在起きているロシアのウクライナ侵攻に重なるという。

横瀬さんの父親は大連で呉服商を手掛け、台湾かハワイに出店を計画するほど繁盛していた。戦争が始まるまで幸せな日々が続いたという。しかし、太平洋戦争の開戦が幸せな生活に暗い影を落とす。

父親は44（昭和19）年に召集され、満州で警備隊に就いたが、台湾沖で搭乗船が連合国軍の潜水艦に攻撃され沈没、戦死。自身の生活に危険が迫る。終戦後、大連へ侵攻してきたソ連軍が学校を占拠し、学びやに戦車が止まるようになった。さらに中国共産党軍（八路軍）が大連へ侵攻。市街地のそこかしこに「街頭裁判所」を設け、「中国に悪さをした人をむち打ちにしたり、馬に引かせて道を引きずり回したり。絞首刑の公開もあった」（横瀬さん）。

横瀬さん一家は工場を利用した収容所に、町内ごと収容された。母親が働いた賃金で食をつなぎ、解放される時を待った。「少々の中国語は分かるつもりだったが、八路軍の言っていることは分からなかった。何をされるか分からない恐怖があった」と述懐する。

横瀬さんは、出征する前の父親から言われはっきりと覚えていることがある。

「お母さんを頼んだぞ」。ウクライナでの戦争を見て思うのは、戦地となる故郷に残る父親が、子どもたちに何かを伝えている姿だという。

「ああ、自分も同じことを体験した。それが最も心に響く」と話す。

横瀬さんは現在、子どもへの平和教育や青少年の育成活動、修養団での社会教育活動に取り組む。「次世代に悲惨な思いをさせたくない。大切なのは自己主義に陥らず、利他の心を磨くことだ」と話す。

㊋「SYDかわらばん」をご活用ください

みなさまからの情報提供をお待ちしております。特に組織の方々が主役になるような情報誌を目指しておりますので、活躍されていること（愛と汗の実践）や、読んで元気になるようことなど、先ずはお気軽にご提供下さい。

SYDホームページ「WEBかわらばん」では、過去1年分の全ページを掲載しています。

「SYDかわらばん」への活動報告例

タイトル	主な活動
開催日	○○月○○日（○曜日）
活動内容	100～200字程度で活動を紹介
発信者	氏名
写真	1～2枚程度

ご　案　内

各連合会・クラブから全国各地の連合会・クラブ等（約160ヶ所）へ送付を希望される印刷物（「SYDかわらばん」に同封可能な印刷物）がありましたら、毎月5日までに社会教育部までご相談ください。

11月12日

「チャリティーバザー（幸せの種まき祭り）」への提供品のお願い

〈提供品例〉

- 日用品（タオル、シーツ、石鹸等）※未使用品
- 衣料品（古着はご遠慮ください）
- 雑貨（バッグ、アクセサリー等）
- 電化製品　・玩具　・食器　・野菜
- 特産品（もち米、お米、海産物、菓子等）

ご提供いただける場合は、お電話、ファクシミリ、Eメール等でご一報ください。

〈発行・連絡先〉

SYD（公益財団法人修養団）　社会教育部
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2
☎03(3405)5441　FAX03(3405)5424
E-mail：info@syd.or.jp
ホームページ：https://syd.or.jp/
SYD　検索